

日本で食べるものは 日本で作る

こく しょう こく さん
「国消国産」を
いっしょに考えよう



JAグループサポーター
林修

なぜ今?
国消国産

生きるために欠かせない食料は 日本で作ったほうが安心

新型コロナウイルスの感染が広がりはじめたとき、マスク不足が大きな問題になりました。もしこれが食料だったら、どうなっていたでしょうか。いざという時、マスクのような工業製品は急いで作れますが、農地を耕し、自然と調和しながら、長い年月をかけて育まれる農畜産物は、不足したからといってすぐに作れるわけではありません。

日本の「食」をとりまく5つのリスク

食料自給率の低迷

食料の多くを
輸入に頼り続けている

農業生産基盤の弱体化

農家の減少と高齢化、
農地の減少が進む

自然災害の多発

世界と日本の農業が
多くの災害に直撃される

世界的な人口増加

世界の人口増加で
食料不足が懸念される

国際化の進展

輸入増加で食料自給率
低下の可能性はある

日本の「食」は、今さまざまなリスクに直面

今、日本の食料自給率は38%*です。つまり食料の約6割を輸入に頼っているのです。その大きな要因は、農家の減少や高齢化など、生産基盤の弱体化です。さらに、日本も含めた世界中で自然災害が多発しています。もし、日本が多くの食料を輸入している国で自然災害などが発生し、食料生産が大幅に減少したら、日本の食生活にも多大な影響を及ぼしかねませんが、食料の輸入は増加しているのです。さらに、今後も世界的な人口増加が予測される中、日本ではこれから先ずっと、食料を輸入し続けられるのかという懸念もあります。このように、日本の「食」は、多くのリスクに直面しているのです。

*カロリーベース 2019年 農林水産省による

だから今!
国消国産

「国消国産」で 「食」の安心を次の世代に

そのようなリスクにさらされている中で、JAグループは、「国民が必要」として「消費する食料は、できるだけその「国」で生「産」する、「国消国産」という考え方を提起しました。私たちの毎日の「食」の安心はもちろん、子どもや孫たちの世代にまで、この日本という土地で豊かな実りが絶えることのないように、おいしい食卓を囲む笑顔が絶えることのないように、「国消国産」は、日本の「食」のこれからにとって、大きな意義をもっています。

